

牛海綿状脳症（BSE）の感染源及び感染経路の調査について

1 中核機関・研究総括者
東京大学 吉川泰弘

2 研究期間
2005～2006 年度（2 年間）

3 研究目的

我が国におけるBSE感染牛は現在までに17頭発生（平成17年4月末現在）しており、7例目までの発生については、感染源及び感染経路の疫学的な検討を行い、それに基づくリスク管理措置が講じられている。

しかしながら、8例目以降の発生は、肉骨粉の飼料利用に関する規制後に生まれた若例牛での発生事例も見られるため、リスク管理措置の再点検が必要である。

このため、我が国における8例目以降の牛について、感染源及び感染経路の疫学的調査を行い、我が国における発生原因の更なる究明を行う。

4 研究内容及び実施体制

① 定量的リスク分析（東京大学）

1例目から7例目のデータに加え、8例目以降のサーベイランスデータに基づく、シナリオの検証を行い、BSE病原体の我が国への侵入リスクの評価、及び国内における国産牛の暴露リスクの評価、国産牛での増幅の可能性について分析する。

② 定性的リスク分析（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構動物衛生研究所）

8例目以降の調査結果を分析し、我が国で発生したBSE感染牛の感染源及び感染経路の可能性について、定性的リスク分析を行う。

③ 総合評価（東京大学、（財）日本生物科学研究所）

我が国で発生したBSE感染源の感染経路モデルによる定量的リスク分析、感染源及び感染経路に関する定性的リスク分析により考察された結果をもとに我が国で発生したBSE感染牛の総合的評価を行う。

5 目標とする成果

我が国における発生原因の更なる研究を行い、その成果に基づき7例目までの発生に関して取りまとめられた感染源及び感染経路の疫学検討に基づくリスク管理措置の再評価を行う。

牛海綿状脳症(BSE)の感染源及び感染経路の調査について

- ・わが国の7例目までの発生例について疫学的検討を行った。
- ・8、9例目は世界でも報告の少ない若齢ケースであり、8例目以降について疫学分析が必要。
- ・新たな疫学分析に基づくBSEまん延防止措置の検証が必要。

調査研究チーム

疫学分析手法に関する研究

- ・疫学分析法の検討
- ・追加調査の企画・立案とデータの提供依頼

疫学分析の実施

- ・追加調査・情報に基づく疫学分析の実施
- ・結果の提示

発生予測研究の実施

- ・我が国での発生予測
- ・疫学研究結果の提示

研究結果の報告

- ・疫学研究結果の最終報告
- ・まん延防止のための対策の提言

消費者・生産者・行政

情報の提供

- ・調査研究のための情報提示
(感染源、疫学分析のための情報等)

追加情報の提供

- ・提供依頼のあった情報の収集・提供

疫学分析結果の評価

- ・プリオン病小委員会で疫学分析結果の評価
- ・評価結果の提示

研究結果に係る意見交換会

- ・疫学研究結果のリスコミ・結果の公表

まん延防止措置の評価

- ・プリオン病小委員会でまん延防止措置の検証